



# 「西浦みかん」栽培にドローン

ドローンによる農薬散布のデモ飛行。ミカン栽培で実証試験に  
取り組む沼津市



## 省力化へ農薬散布試験

J Aふじ伊豆と沼津市、県などは22日、ミカン栽培でドローンによる農薬散布の実証試験を始めた。特産ブランド「西浦みかん 寿太郎」に代表される県内有数の産地、同市三浦（さんうら）地区（西浦、内浦、静浦）での導入を目指す。

### 沼津・三浦地区 高齢化や傾斜地に対応

J Aによると、伊豆半島の海岸線に広がる3地区のミカン畑は、傾斜20度以上の急斜面が全体の57%を占めている。実証試験は生産者の高齢化が進む中、先端技術で作業負担を減らす「スマート農業」で産地を維持するのが目的。

プロペラやノズルを改良して噴射量を増やした自動航行型の農業用最新機を使う。デモ飛行の後、ミカン畑の上空から農薬をまいた。

試験期間は3年。約500平方メートルの畑で年6回の農薬散布にドローンを使い、実の大きさや形、糖度などを計測するとともに、上空からの散布に適した枝切り（木の形）を検証する。

農業用ドローンはこれまで稲作中心だったが、噴射量の増加で畑作や果樹栽培にも活用が広がると期待される。同J A西浦柑橘出荷部会の真野高志部会長（67）は「山の段々畑に人の手でまくのは労力が必要。特に夏場の負担は大きく、ドローン導入が進めば省力化につながる」と話した。

（東部総局・杉山諭）

記事を読んで、問いに答えましょう。

- ①ミカン畑が広がる三浦地区（西浦、内浦、静浦）があるのは何半島か。 （ **伊豆** ）半島
- ②写真のドローンはミカン栽培のどんなことに役立つのか。  
（例）農薬散布、実の大きさや形、糖度などの計測、上空からの散布に適した枝切りの検証 など
- ③産地を維持するために、先端技術を活用した「スマート農業」が必要になってきた理由を書きなさい。  
（例）生産者の高齢化が進み、作業の負担を減らす必要があるから。
- ④農業用ドローンの活用は今後どうなっていくと考えられるか。あなたの考えを30字以内で書きなさい（句読点を含む）。  
（例）  
・稲作中心から畑作や果樹栽培にも活用が広がっていくだろう。（28字）  
・高齢化が進むので、傾斜地や夏場の活用は増えていくだろう。（28字）  
・自動航行型への改良で、さらに省力化が可能になるだろう。（27字） など

年 組 名 前